



祝 第121回 卒業式 羽ばだけ！希望の未来へ

藤枝北高新聞

発行
静岡県藤枝市郡970
県立藤枝北高等学校
写真・新聞部
印刷 池田屋印刷㈱



3月2日(月)、第121回卒業式が挙行される。卒業生159名が
藤枝北高校を巣立ち、それぞれの道へ旅立っていく。



男子77名、女子82名、計159名の3年生が3月2日(月)に卒業する。



校長先生より

に挑戦し続けてきたのだと確信しています。今年度は特別な節目の年ではありませんでしたが、皆さんが積み重ねてきた努力は、どの学年にもも負けない価値あるものです。「自彊不息(じきよふたふた)」の精神を胸に、それぞれの進路先で自らを高め続け、社会で頼られる存在として活躍していきましょう。

鈴木 浩 校長先生

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私が3年生の皆さんと共に歩んだのは一年間でしたが、日々の学校生活の中で見せてくれた落ち着きある行動と、互いを支え合いながら前へ進む姿がとても印象に残っています。行事や探究活動に携わって、自らの役割をおいでも、自らの役割を果たしつつ周囲をよく見長を感じることができました。きつこの3年間、担任を始めとする教職員を支えの下、多くのこと

- ### 卒業生アンケート
- 1位: 人柄の良い人多き
 - 2位: 多き
 - 3位: 学校行事多き
 - 4位: 部活動
- 運んだのは「授業の選択肢の多さ」。圧倒的1位。約8割の卒業生が3年生のうちに決めたい人や、2年生のうちに決めたい人はいません。という結果でした。

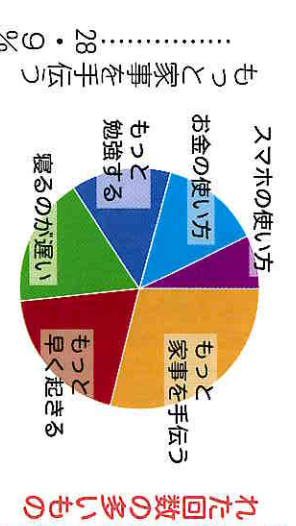
- 1位: 一番楽しかった学年はいつですか?
 - 3年生: 40% (8%)
 - 2年生: 37% (8%)
 - 1年生: 21% (4%)
 - 3年生: 44% (9%)
 - 2年生: 23% (5%)
 - 3年生の夏
 - 2年生の10月から3月
 - 3位: 食品製造
 - 2位: 体育
 - 1位: 食環
 - 2位: 餅つきが思い出に残っている人も
 - 3位: 様々な科目が着る中、こんな回答も、「この授業も北高ならではの内容で、農業や調理、系列などすべてがおもしろかった。2年の選抜での風物で初めてパン作りを長べ、よく耳にしていたとおりの句いすさが印象的だった。
- ### ③北高の良いところは?
- 1位: 授業の選択肢の
 - 2位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 3位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 4位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 5位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 6位: 先生の前半で決めた人は少ない
- ### ④卒業後の進路希望を最終的に決めた時期は?
- 1位: 3年生の4月から6月
 - 2位: 3年生の夏
 - 3位: 2年生の10月から3月
 - 4位: 1年生のうちに決めたい人や、2年生のうちに決めたい人は少ない
 - 5位: 1年生のうちに決めたい人は少ない
 - 6位: 1年生のうちに決めたい人は少ない
- ### ⑤これから交際相手と出会うなら次の中でどれがいい?
- 1位: 授業の選択肢の
 - 2位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 3位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 4位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 5位: 先生の前半で決めた人は少ない
 - 6位: 先生の前半で決めた人は少ない



卒業生代表より

三年間の高校生活を振り返ると、教えきれない経験と思い出がよみがえります。決して順調なことでばかりではありませんが、今の私たちが成長させてくれた大切な時間です。そしてクラスでの日常や友人との何気ない時間も、かけがえのない思い出でした。

- 友人の紹介: 19% (4%)
 - アパリ: 3% (3%)
 - 家族の紹介: 0% (0%)
 - 自分自身で人生を歩んでいく
- ### ⑥3年間で親から注意された回数が多いもの
- 1位: 友達を紹介
 - 2位: アパリ
 - 3位: 家族の紹介
 - 4位: 自分自身で人生を歩んでいく
 - 5位: 自分自身で人生を歩んでいく
 - 6位: 自分自身で人生を歩んでいく



画面内容や景品にまでこだわり準備を進めてきました。試行錯誤を重ねる中で不安を感じることがありましたが、自彊祭一日目の当日、会場が大きくなり盛り上がりを見せて生徒の皆さんが笑顔で参加してくれている姿を見たと、胸がいっぱいになるほどの安心感と喜びを感じました。

- 1位: 青春
 - 2位: 楽しい
 - 3位: あつという間
 - 4位: あつという間
 - 5位: あつという間
 - 6位: あつという間
- ### ⑦高校生活を一言で表すと?
- もっと早く起きる: 19% (6%)
 - もっと勉強する: 17% (5%)
 - もっと早く起きる: 13% (4%)
 - もっと勉強する: 7% (2%)

画面内容や景品にまでこだわり準備を進めてきました。試行錯誤を重ねる中で不安を感じることがありましたが、自彊祭一日目の当日、会場が大きくなり盛り上がりを見せて生徒の皆さんが笑顔で参加してくれている姿を見たと、胸がいっぱいになるほどの安心感と喜びを感じました。



新生徒会のメンバー

このたび、生徒会長として新たな一年を担うこととなりました。私が掲げるスローガンは、「日常に、誇りと輝きを」。常にある言葉には、特別な成果や華やかな瞬間だけに価値を見いだすのではなく、日々繰り返し返さる学校生活の一場面一つ一つ、生徒同士の相互理解を深め、学校全体に連帯意識を醸成する重要な魅力を高めていきたい。また、生徒一人ひとりの主体性や責任感を育むと同時に、学校と基盤である私は考えています。学校生活には、明確に言葉として表されることのない課題や、無意識の姿勢で周囲の意見に耳を傾けながら職責を全うしていきます。

個の力には限界がありますが、多様な価値観と生徒の学習意欲や生活の質に少なからぬ影響を及ぼします。生徒会は、そのうした声なき声を丁寧に取り上げ、学校運営と共に思考し、共に行動する生徒会を築き上げることで、日常の中に誇りと輝きを実現できる学校の姿を整え、生徒ができる環境を整え、生徒と学校を結ぶ媒介として機能を一層強化していきたいと考えています。

また、生徒会活動は行事の円滑な運営にどきどきする学校生活の一場面一つ一つ、生徒同士の相互理解を深め、学校全体に連帯意識を醸成する重要な魅力を高めていきたい。また、生徒一人ひとりの主体性や責任感を育むと同時に、学校と基盤である私は考えています。学校生活には、明確に言葉として表されることのない課題や、無意識の姿勢で周囲の意見に耳を傾けながら職責を全うしていきます。



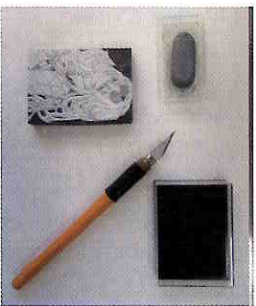
生徒会長 大石侑寛さん

新生徒会、始動！

消しゴムはんこを作ったことはありますか？文具店には趣味で楽しむ人向けのセット用品が売られています。高校生スタンプ設置団体にちなんで萩原さんの自作です。スタンプデザインを考え、自ら環境化学の工場で角材を切断し、やすりをかけて持ち手を付けたスタンプの数々。ひとつ作るのに3時間ほどかかったのですが、一般客のみならず、スタッフが押しやさんかスタンプを押しや味を持ちました。はじめ彫ったのはシンプルな星形で、失敗作に終わってしまいました。そこであきそうです。そこであきらめず、いろいろな作品にチャレンジしていきまくなつてたまま、だだりしてました。はんこは実用的で生活の中で使える子どものお客さんもいたんです。

自作のはんこを友人にプレゼントすることもありますが、友人の趣味・好みに応じて、気に入ります。自強祭一般公開で、生徒会祭一般公開で、

周りの人たちの笑顔にする消しゴムはんこ達人！萩原幸大さん (31HR)



制作中の作品 彫り機、スタンプ、彫削機、カッター

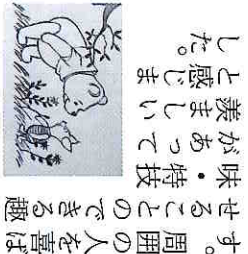
うなデザインに仕上げるとを萩原さんに質問して完成させます。実際に萩原さんからプレゼントされたことがありますが、手づねや目や口の乾きなども大変です。母の作品と見比べると線の太さなどの繊細な部分で及ばない点が多く、練習不足を感じます。」この特技を今後の職業などにいかしたりしないつもりは全くないです。後もしばらくは作品を作っていくのか楽しみにしています。」と話してくれました。



一部作品のスタンプラリー！好評の自作作品



本人の強い希望を隠していません。達成感があるときは、自分の目の趣味は、



味・特徴があっても、周囲の人を喜ばせることのできる趣味・特徴を感じました。



同窓会のため体面を磨かざるに作っていきたくて、報酬をもらうのは違うな、と感じています。以前ある機会があって消しゴムはんこアートイラストの方とお話しすることがあり、とても楽しい時間でした。

は、昔と比べると上達している実感があるのは嬉しいです。細かい絵を作っている中で1ミリ以下の細さの部分をミスなく彫ることができ、達成感があります。この趣味は、自分の目の趣味は、



短時間で登ることができ、山頂からは景色も楽しめるので初めての山登りにおすすめです。

【部活動】アクトピア部 山が私達に教えてくれたこと

部長 22HR 大村颯斗

私たちがアクトピア部が週に二回活動の際に三分間の走り込みを行っていることを存じの方は、一年一度行われる夏山合宿に、昨年、去年は仙丈ヶ岳を登りました。夏山合宿は一泊二日で山を登るにつれ、私たちはたくさんの知恵と技術を身につけてきました。例えば、山の中で足を手の使い方、地図を読み気象を判断するなどの実践的なものです。また、たくさんの山を登ることによって山頂からの景色や季節ごとの山の姿の変化などを味わい、自然を堪能することができ、また近

きます。その中でも私が一番印象に残っているのは、年々物々しく見ることができ、山ならではのキノコや植生をたくさん見ることができ、自然を敬う心と仲間意識を身につけています。山での活動を通して、私たちは技術や体力以上に、自然を敬う心と仲間意識を身につけてきました。山頂では普段見られない絶景や達成感を味わうことができます。また、高草山は登山道が整備されていて標高も高すぎず、ちなみに近隣でおすめな山は「高草山」です。山頂では普段見られない絶景や達成感を味わうことができます。

夏山合宿は、山は簡単な場所ではありませんが、その分多くの学びと感動を与えてくれます。アクトピア部で過ごしたこれらの経験も、これからも大切にしていきたいです。

体育祭



10月1日(水)、本校グラウンドにて体育大会が開催された。今年はいく小雨が降る中で行われたが、少くらいの縄跳び、H.R対抗リレー、生徒会種目を実施した。生徒たちは優勝を目指しクラスで一致団結して、元気な声援と共に全員が200M、台風の目、は、短距離走(100...



た。1位を勝ち取ったチームも、一位を逃してしまっ共には仲間たちと笑い合っていた。とても素晴らしい雨が降る中での大会だっ

文化祭

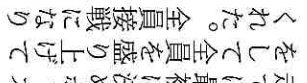
11月7日(金)と8日(土)に藤枝北高等学校にて年に一度の文化祭(通称:自彙祭)が開催され、恵まれた天候のもと活気に満ちた2日間と

初日の体育館での校内発表は、各クラス・各部活などが出演してのカウ

ントダンス・ピアノがオーケストラを飾りおおいに盛り上がった。メッセークラスの出し物も、生徒を込めた演劇部のオリエンスの個性や工夫がめぐる内容となっていた。今回の自彙祭は、生徒同士の絆を深め、本校の魅力を生かして、さらさら学校生活にも充実した藤枝北高等学校を築いていきたい。



たので、台風の日では棒が滑りそうになりながらまで走り続けた。短距離走では最初に決めポーズをして全員を盛り上げてくれた。全員接戦になりながらも走って良い結果を出せていたと思う。増脚リレー、綱引き、長縄跳び、H.R対抗リレー、生徒会種目を実施した。生徒たちは優勝を目指しクラスで一致団結して、元気な声援と共に全員が200M、台風の目、は、短距離走(100...



がとでもかっこよかった。競争の際には3年担任の長田先生を生徒が肩車する場面が印象に残っている。全員が自分の持っている力を発揮した最高の体育大会だった。



違った楽しさがあったことに盛り上がりを見せている。特に3年生の食品販売は、クリスマス、チャロス、ジュース、やきとり等どれもおもしろい。明るい掛け声で元気一杯に販売する3年生の姿も印象的だった。来場者とのやり取りを大切にしなから丁寧な接客態度で販売を行う姿は、文化祭の雰囲気をさらに温かいものにしていった。2年生は、脱出ゲーム、イカゲーム、お化け屋敷。無限城といった体験型の企画が中心で、来場者がそれぞれにとって大きな成長につながったことだろう。今回の自彙祭は、生徒同士の絆を深め、本校の魅力を生かして、さらさら学校生活にも充実した藤枝北高等学校を築いていきたい。



海洋ごみシヨック

「サーフィンを通じて考える海洋環境問題」

世界中で、様々な企業が様々な商品を生産・販売している、それが今の世の中です。どの企業も消費者により良い商品を提供しようとし、そのことによって私たちの需要も高まっているように思います。しかしその背景には、商品が人の手によって残念な捨てられ方をされていることがあります。皆さんは、そんなごみの行方を知っていますか？

リサイクル処分せず簡単に廃棄されるプラスチック類はほとんどは、海に流れてしまっています。そのごみの多くはペットボトルなどのプラスチック製。日本における海洋ごみの内訳では、プラスチックが約四割から五割以上まで増加しています。

また、プラスチックを取り巻く国内外の状況について環境省は、2050年には海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加するという見通しの資料を公表しています。

私はサーフィン競技の遠征で全国各地や海外のビーチを訪れる機会があります。その際、ビーチクリーンが行われている地域とおこなわれていない地域では、ごみの量にかなり違いがあると感じます。私が訪れた中で特にごみの量が多かったビーチは、福井県の鷹巣海岸とインドネシアにあるバリ島のウルワツという場所です。



サーフィンで訪れたインドネシアの美しい海

した。私たちの目には見えないマイクロプラスチック(直径5ミリのメートル以下の微細なプラスチック粒子)や発泡スチロールなどの大きなごみまで数多くあります。私自身ごみの多いビーチをよく見ますが、ほとんどがプラスチック製品です。では、そのごみが海にあるとどのような悪影響を及ぼすのでしょうか？

それは海の環境をごみで汚し、海洋生物の生活を壊したり、殺してしまったりすることです。皆さんも一度や二度は、ウミガメやクジラなど海の生き物たちが誤ってプラスチックを食べってしまった画像を見たことがあるのではないのでしょうか。あのような状態が、近年世界中で問題になっており、私はこれを「海洋ごみシヨック」と呼んでいます。

私は、中学生の時から海洋汚染の問題に興味があります。そのため、私は海洋ごみについて調べ、ビーチクリーンに積極的に参加したり、海洋ごみについて中学校の総合的な授業の時間ですて協力していく中で、少しくなってきたまじりか強くなくなっていました。一日一日は短く感じていても振り返ってみると印象に残る場面がたくさんあります。

来年度は新しい環境や新しい目標に向かって進んでいく人も多いことでしょう。ここまで頑張って来た経験を力にして、それぞれの場所で頑張っていきたいと思っています。

です。私たちの生活には、プラスチック製の袋、ストロー、スプーン、ペーパータオルなどたくさん製品があふれています。それらの使用を控え、布などできたバックや長く使える水筒を持ち歩いたりすることによって、発生源の削減につながります。また、沿岸部での清掃活動を普及させるのも必要だと考えています。

海洋ごみによる海洋汚染は、私たちの手によるものです。私たちが未来を守るためにどう行動すべきか、皆さんもよく考えてみてください。そして、周りの大人や友達とシェアしてみてください。

編集スタッフ

- 二画 寺川 花 内 藤 達 吾
- 三画 北川 学 子 内 藤 達 吾
- 四画 宮川 乙 葉 塚 本 彩 希
- 五画 安藤 楓 榎 山 陽 菜
- 六画 大塚 翠 月 東 豊 影 津 奈
- 七画 山 經 花 久 保 池 大 和
- 八画 久 保 池 大 和

編集後記

皆さん、今年度も大変お疲れ様でした。気づけば令和七年度も終わりを迎えようとしています。教室で過ごした思い出を思い返すと、本当にあっという間の一年でした。

二コマでは大塚万博の話題や熊による被害などについて耳にすることが多く、社会全体でいろいろな出来事があった一年でした。学校生活でもさまざまな行事があり、授業や部活動に励み、出がけできました。大きな出来事だけでなく、ごく当たり前にある皆さんの生活に大切な時間たちによってではないでしょうか。

今年度の学校生活ではうまくいかなかったことや大変なこともありました。クランクアウトしていきの中で、少しくなってきたまじりか強くなくなっていました。一日一日は短く感じていても振り返ってみると印象に残る場面がたくさんあります。

来年度は新しい環境や新しい目標に向かって進んでいく人も多いことでしょう。ここまで頑張って来た経験を力にして、それぞれの場所で頑張っていきたいと思っています。